

授業科目名	行動科学 behavioral science	担当教員	熊倉俊一 (他 日程表に記載)
開講年次・学期	1 年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義・スモールグループ ディスカッション・プレゼンテーション	時間数/単位数	2 単位
<b>目的・概要</b>			
<p>人は、苦しみを避け、自己の幸せ・安楽を求める利己的な存在である。しかし、人は、常に他者との関わりで生存する。その意味で、人は、利他的・道徳的であるべきである。「行動科学」では、人の行動と心理との関係を学び、他者や社会に対して適切な行動をとることができる資質を培う。</p> <p>また、人が病気になったときの心理と行動、さらに、人の習慣や行動が健康や疾患に与える影響について理解を深める。</p> <p>&lt;ディプロマポリシーとの関係&gt;  医療人として適切な判断力・行動力  コミュニケーション能力  問題解決・自己研鑽能力</p>			
<b>学修成果（到達目標）</b>			
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人の行動は、個の価値観や幸福観、感性、経験、欲望、利己・利他的感覚、理性、道徳的観念などさまざまな要因により規定されることを理解できる。</li> <li>2. 他者の心理や行動を理解・支持し、良好な人間関係を構築できる。</li> <li>3. 健康における精神と身体関係を説明できる。</li> <li>4. タバコ、アルコール、危険な性行為、食生活・運動不足など人の習慣・行動は、さまざまな病気の原因やリスクになることを説明できる。</li> <li>5. 人の行動変容と疾病予防、健康増進について具体的に述べるができる。</li> </ol>			
<b>授業の進め方</b>			
スモールグループディスカッション・プレゼンテーション（アクティブ・ラーニング）を基本とする。			
<b>キーワード</b>			
心理、行動、科学者、医師・看護師、患者、精神と身体、習慣と疾患、予防・健康増進			
<b>成績評価の方法</b>			
<b>総括評価</b> 小テスト（授業時間内で実施するレポート） 全体に占める割合：50% 期末試験（課題に対するレポート試験） 50% 全体に占める割合：50%			
<b>形成的評価</b> グループワーク、プレゼンテーション時に担当教員がフィードバックする。 試験終了後に、小テスト、レポートは返却する。自己のポートフォリオ評価として、今後の学修に活用する。			
<b>合否基準</b> 小テスト、レポート試験の総得点を100点満点に換算したうち60点以上			

## 教科書・参考書・視聴覚・その他の教材

「存在と苦悩」ショーペンハウアー（金森誠也訳）白水社  
「原子爆弾1938～1950年」ジム・バゴット（青柳伸子訳）作品社  
「ロバート・オッペンハイマー：愚者としての科学者」藤永茂 朝日選書  
「この子を残して」永井隆 アルバ文庫  
Patterns of tobacco use. Rigotti N. UpToDate  
Management of smoking cessation in adolescents. Rosen JB, et al. Behavioral approaches to smoking cessation. Park ER. UpToDate  
Risky drinking and alcohol use disorder: Epidemiology, pathogenesis, clinical manifestations, course, assessment, and diagnosis. Tetrault JM, et al. UpToDate

## オフィスアワー

月～金

## コア・カリとの関連

- A-4 コミュニケーション能力  
1) コミュニケーション  
2) 患者と医師の関係  
B-1 集団に対する医療  
5) 生活習慣とリスク  
C-5 人の行動と心理  
1) 人の行動  
2) 行動の成り立ち  
3) 動機付け  
4) ストレス  
5) 生涯発達  
6) 個人差  
7) 対人関係と対人コミュニケーション  
8) 行動変容における理論と技法